

# 星界八十八ヶ所めぐり

## 望遠鏡でお遍路の旅へ

第1版 2015年6月9日

作者 となり(tonari)

いわゆるメシエ天体を明るいもの30数個にしぼり、明るい重星と明るいNGC天体等を補った名所案内です。

ファインダで追うので、普通の星座線では広すぎます。独自のルートを決めています。

5～8センチくらいの小望遠鏡に3cmくらいのファンダが付いている機材を想定します。

市街地のベランダや窓際で手軽に見る用途に向きます。

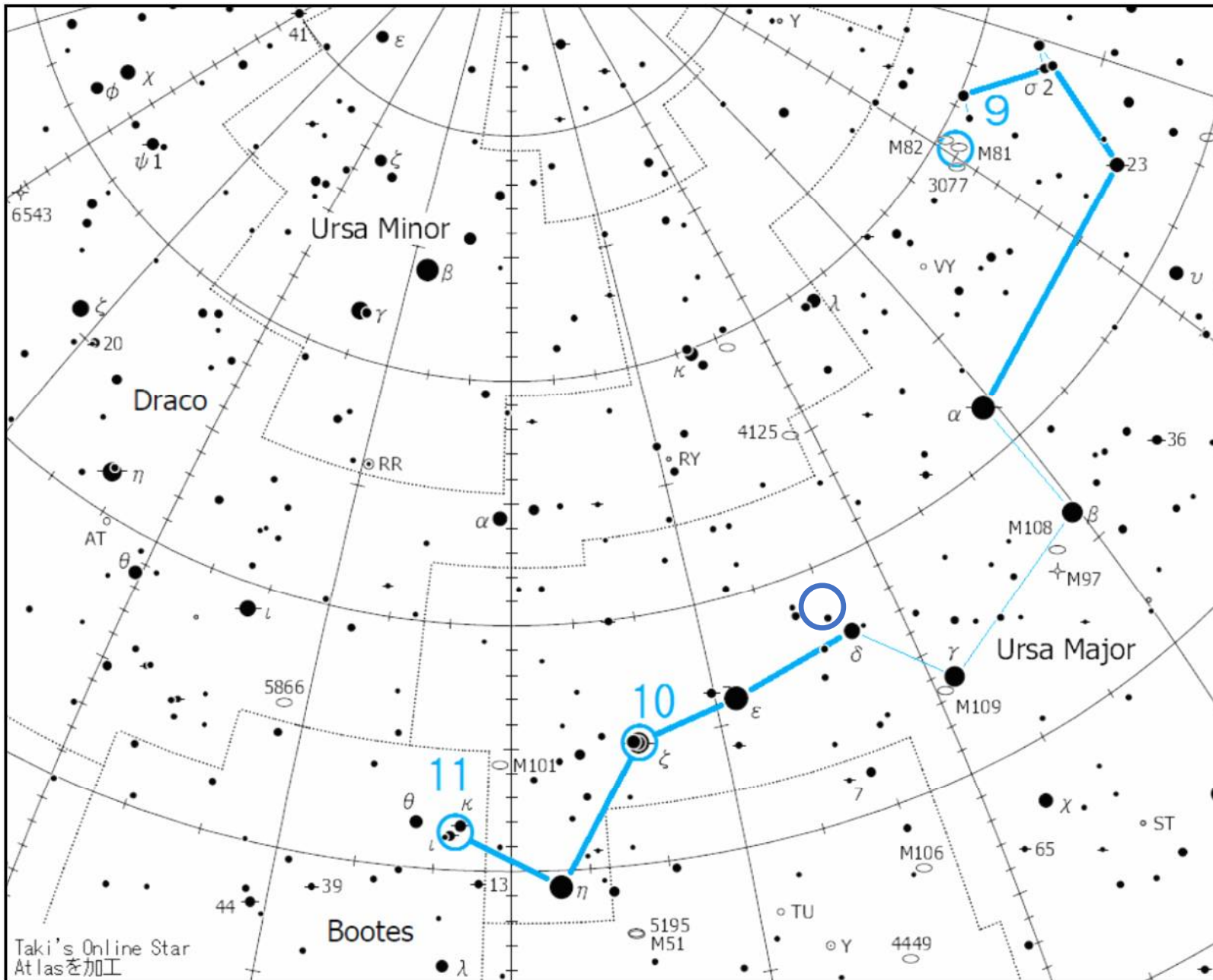
これで天体数が不足する場合、同程度の難易度の天体を漏れなく見るには、同じ作者の「星の道78」を使うと良く、200～300の天体が狙えます。

1. 滝星図6.5をベースに使い、拡大に滝星図8.5を用いた。
2. 天体は、市街地の小望遠鏡に向く明るいものを選んだ。
3. ファインダで導入する道がやや遠い天体は割愛した。
4. 有名でも市街地で淡い天体は割愛した。
5. 狭い二重星も、原則として割愛した。

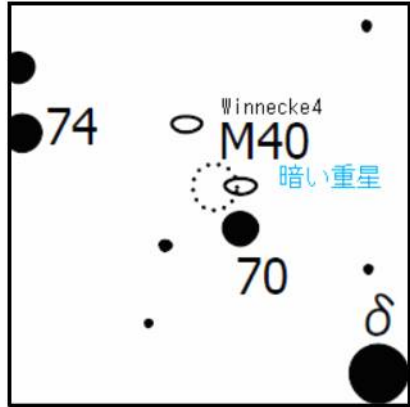
## 追加 1 2 天体について

88天体をみると、悪くない選択と思う。ただ、有名なのに落選させた天体の理由と、惜しい天体を追加して100にするのも良いと思った。天王星と海王星をいれると102になる。そうするとメシエ天体の109にあわせただるかもしれないが、僕はメシエ天体は生前発表の103と考えている。ともあれ100個の備忘録か入門リストとして整えました。

- 追加 1 M40 天体リストのパイオニアに暗い二重星はつきもの。リストから削除するな。
- 追加 2 M66 しし座の銀河はM53とM64がわかってから。
- 追加 3 おとめ座銀河団 やや難しいが宝の山。
- 追加 4  $\omega$ 星団 淡い星団できわめて難しい。
- 追加 5 HD162826、18Sco 太陽の兄弟候補と太陽のそっくりさん。
- 追加 6 バーナード星 有名なのに星図が不備で見る機会が少ない。
- 追加 7 M4 淡い球状星団にご用心。M55は淡さMax。
- 追加 8 NGC6522 銀河系の中心として。
- 追加 9 M54 銀河系外の星団に変わった遠い星団。
- 追加 10 X-1はくちょう座 ブラックホール候補の相方。
- 追加 11 NGC7789 淡い散開星団にご用心。
- 追加 12 M1かに星雲 メシエの80番くらいなら良いかなという星雲。淡い。

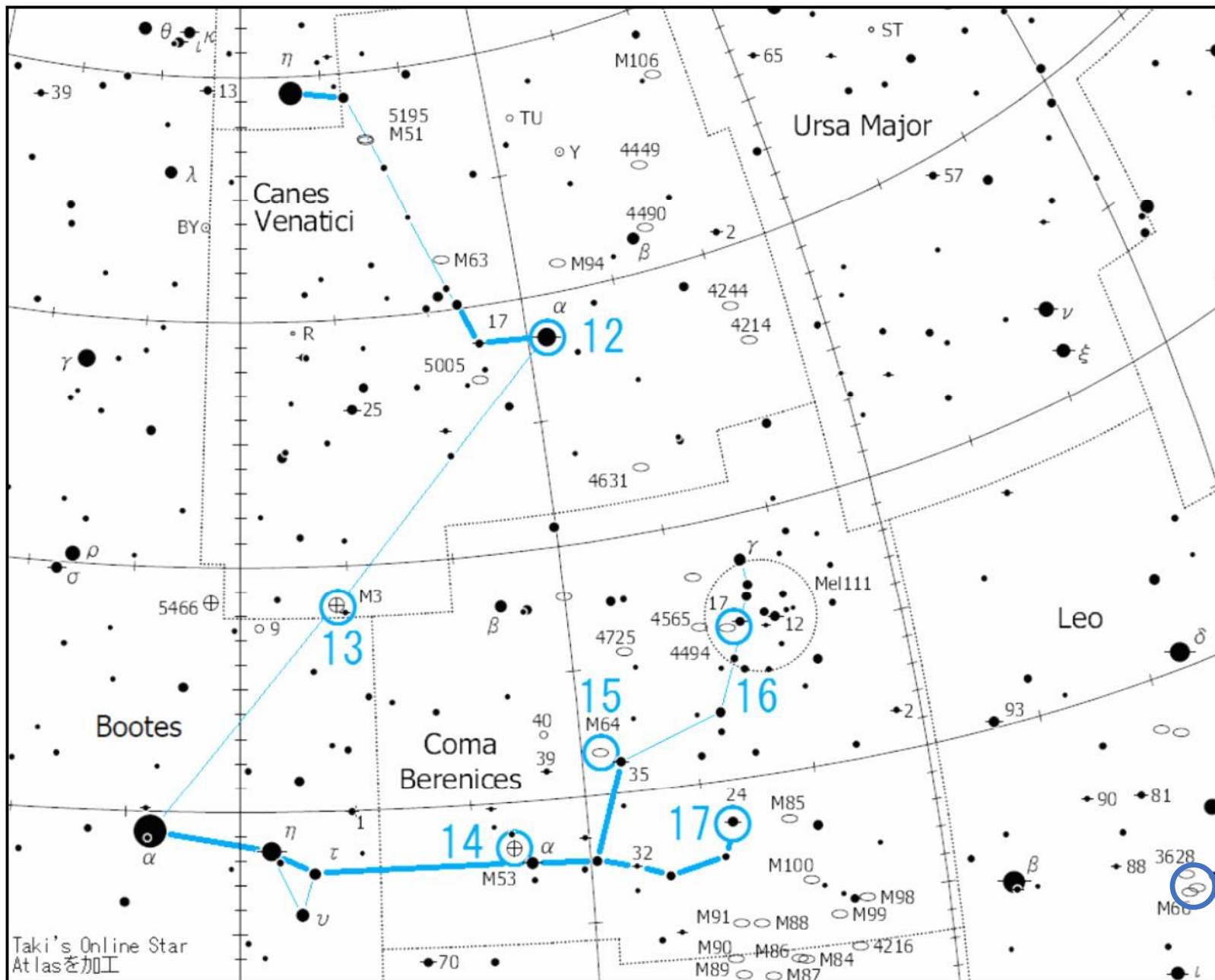


追加 1 番  
M40(UMa)

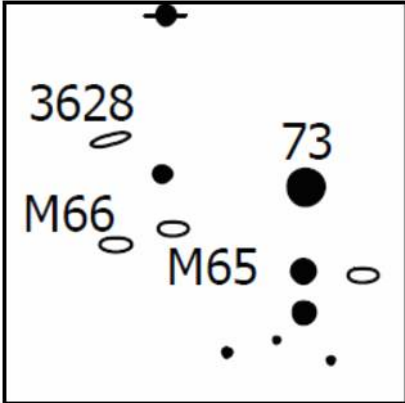


9等の広い二重星で観賞価値は小さい。落穂の1番で取り上げるのはNGCカタログにも暗い二重星は沢山あるから。先駆的天体リストにはつき物なのでしょう。

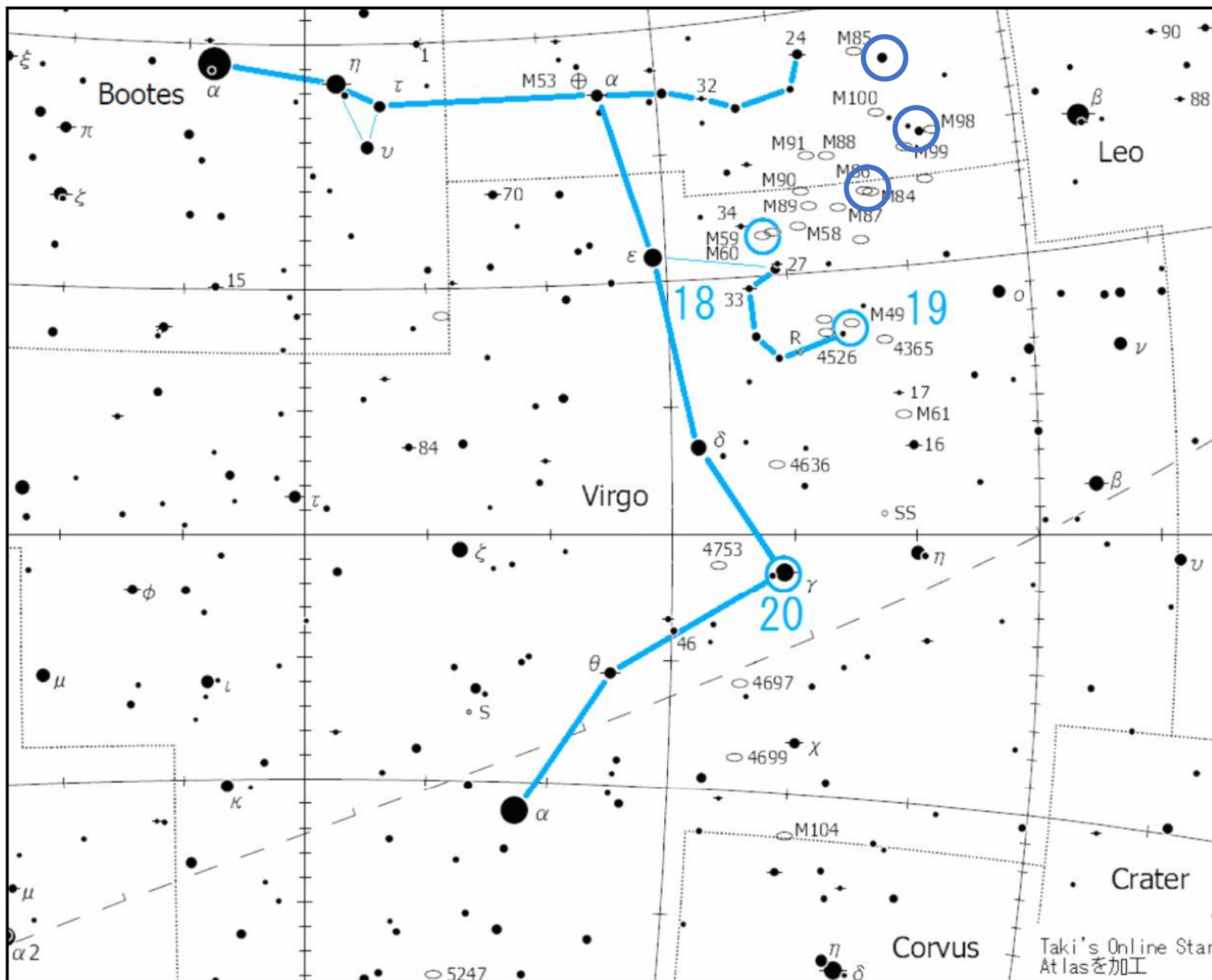
メシエは「擬似彗星天体」のリストを作ったのであって「星雲星団ではない」という理由でメシエ天体から外すのは道理に外れる。



追加 2 番  
しし座の銀河  
M66



悪くない銀河だが、春の定番として最初にトライする銀河ではない。特に NGC3628 はかなり淡い。本稿でやったように、アーケツルスから M53 へ、そして M64 へ行くのが最初のお勧めである。その辺が安定して見えたならやや暗い M66 や M105 もいいだろう。

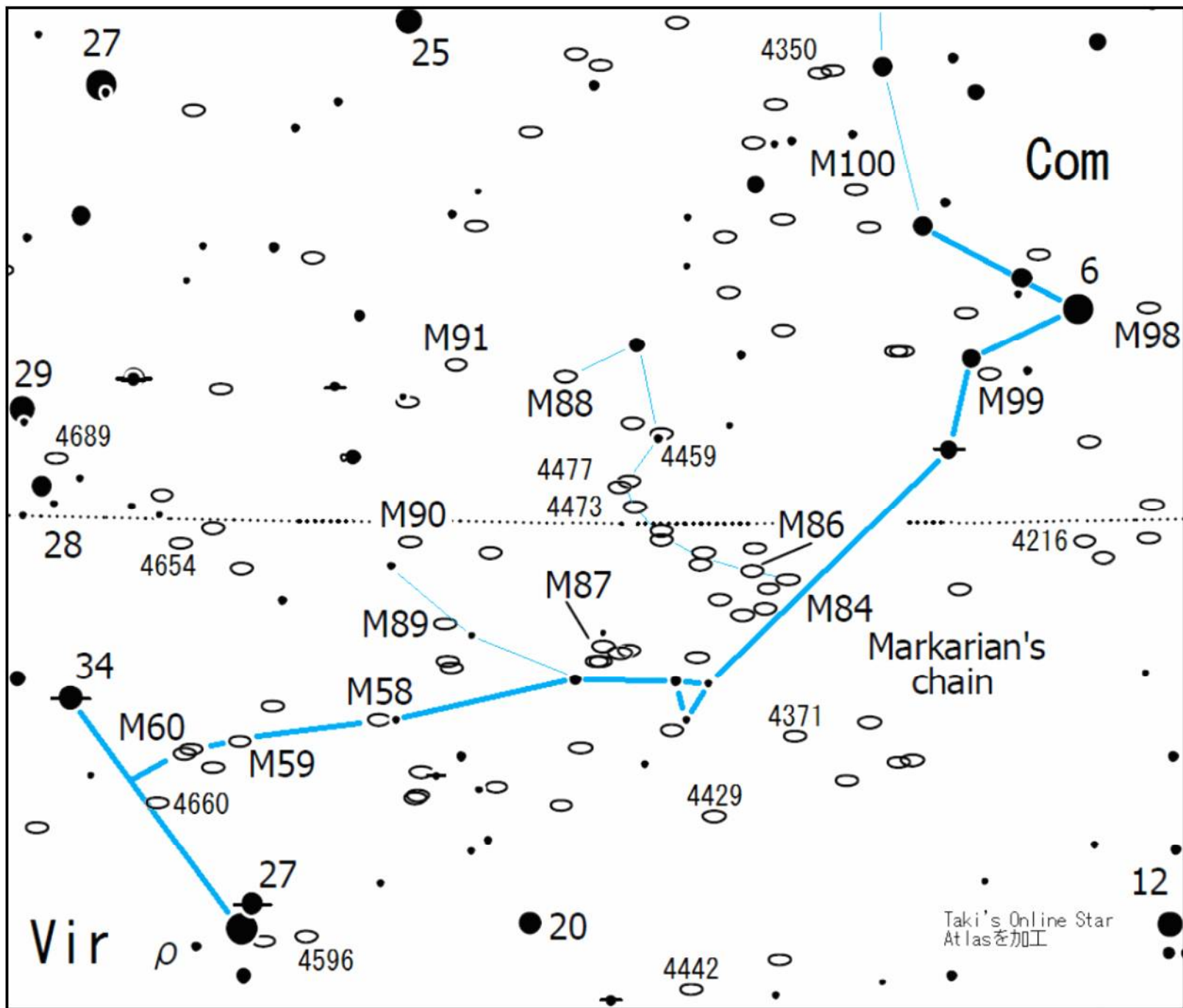


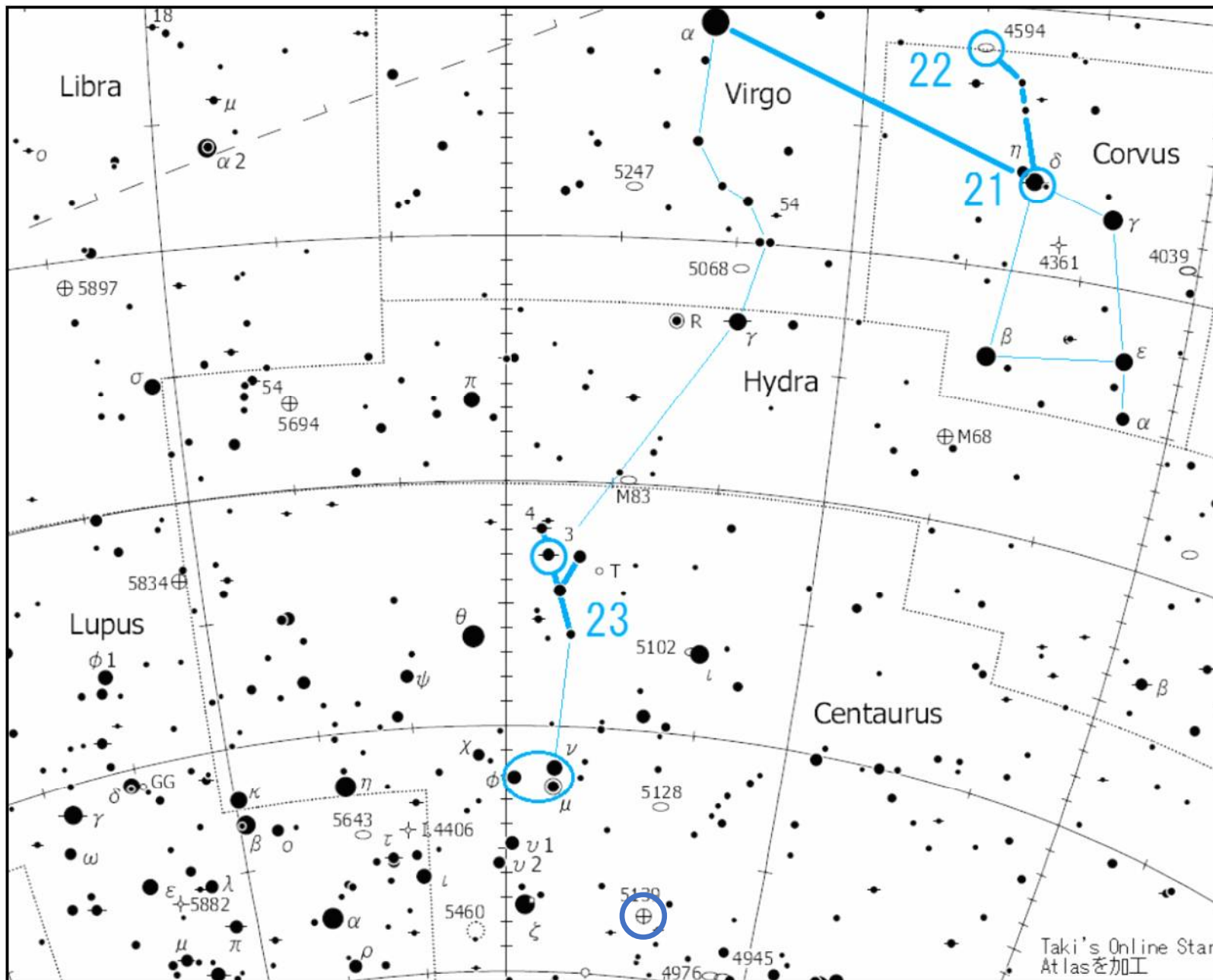
**追加 3 番  
おとめ座銀河団  
M84,86,87**

本稿のルートで M60, M49  
が見えたら、M84, 86, 87  
は明るさは同等で位置が  
わからないだけである。  
挑戦する価値がある。

24 番星から右へ M85 を経  
て、M98 付近へ。  
M60 付近から右へ M58～  
M87～M84/86 を経て M98  
付近で上からのルートと  
合流。以上のルートが解  
れば春の銀河は格段にわ  
かりやすくなる。北斗か  
らりょうけん座へ、しし  
座付近、おとめ座南部は  
その次でいいでしょう。

8 等星が見えるファイン  
ダが欲しい。





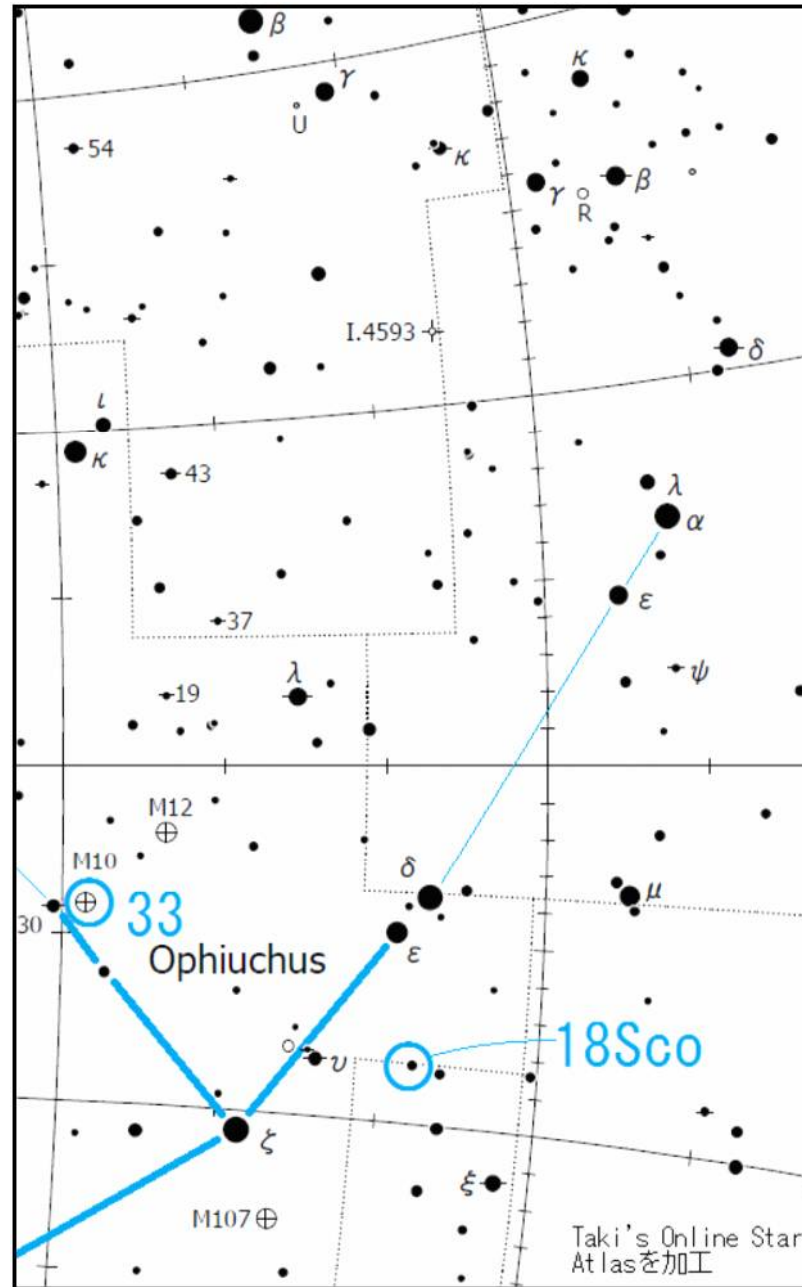
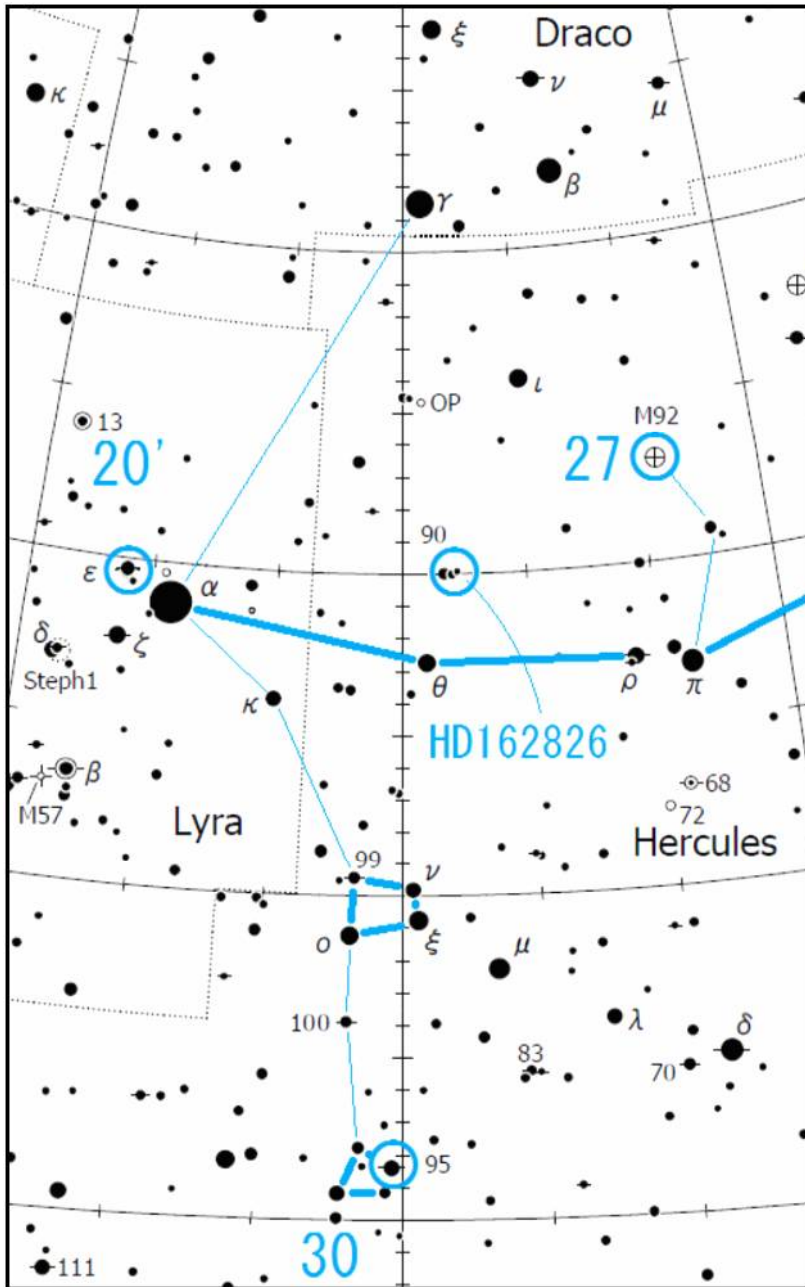
追加 4 番  
NGC5139(Cen)

ω星団の方がとおりが良い。

この星団は結構淡く難しい。ファインダでは力不足で、大き目の双眼鏡かアポクロの低倍率で探するのがよさそうだ。

ζ星を見つけたら右に振る。細かい星は見えない。

もちろん冬の早朝がいい。



追加 5 番  
 HD162826(Her)  
 18 Sco

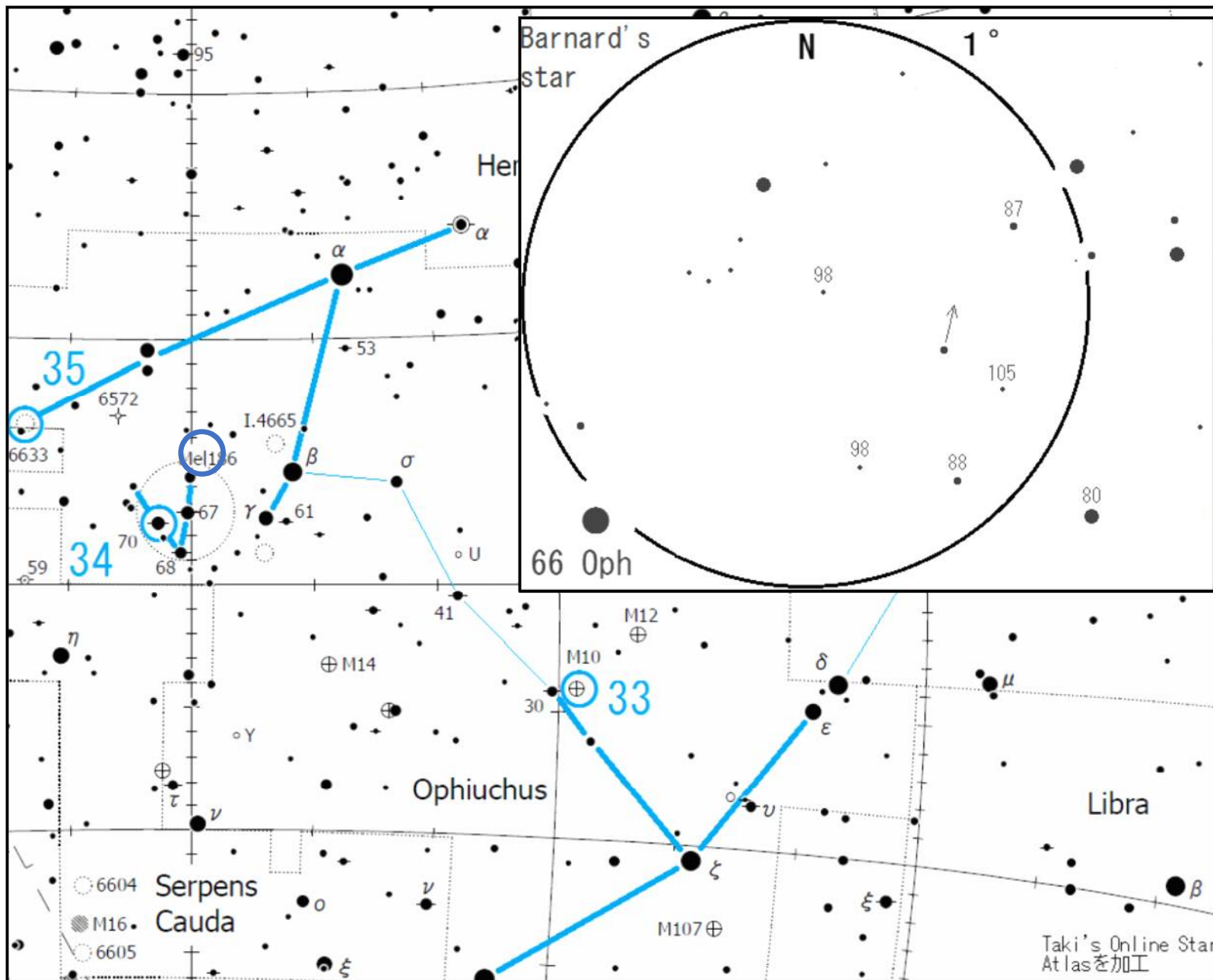
どちらも滝星図 6.5 でわかる明るい星。

HD162826 は太陽の兄弟の候補。90Her のグループの3つの星の右端。昔、銀河系の星間雲から太陽が生まれた際に一緒に誕生した星らしい。

18Sco は太陽のそっくりさん。こちらはスペクトル型等の類似のようだ。

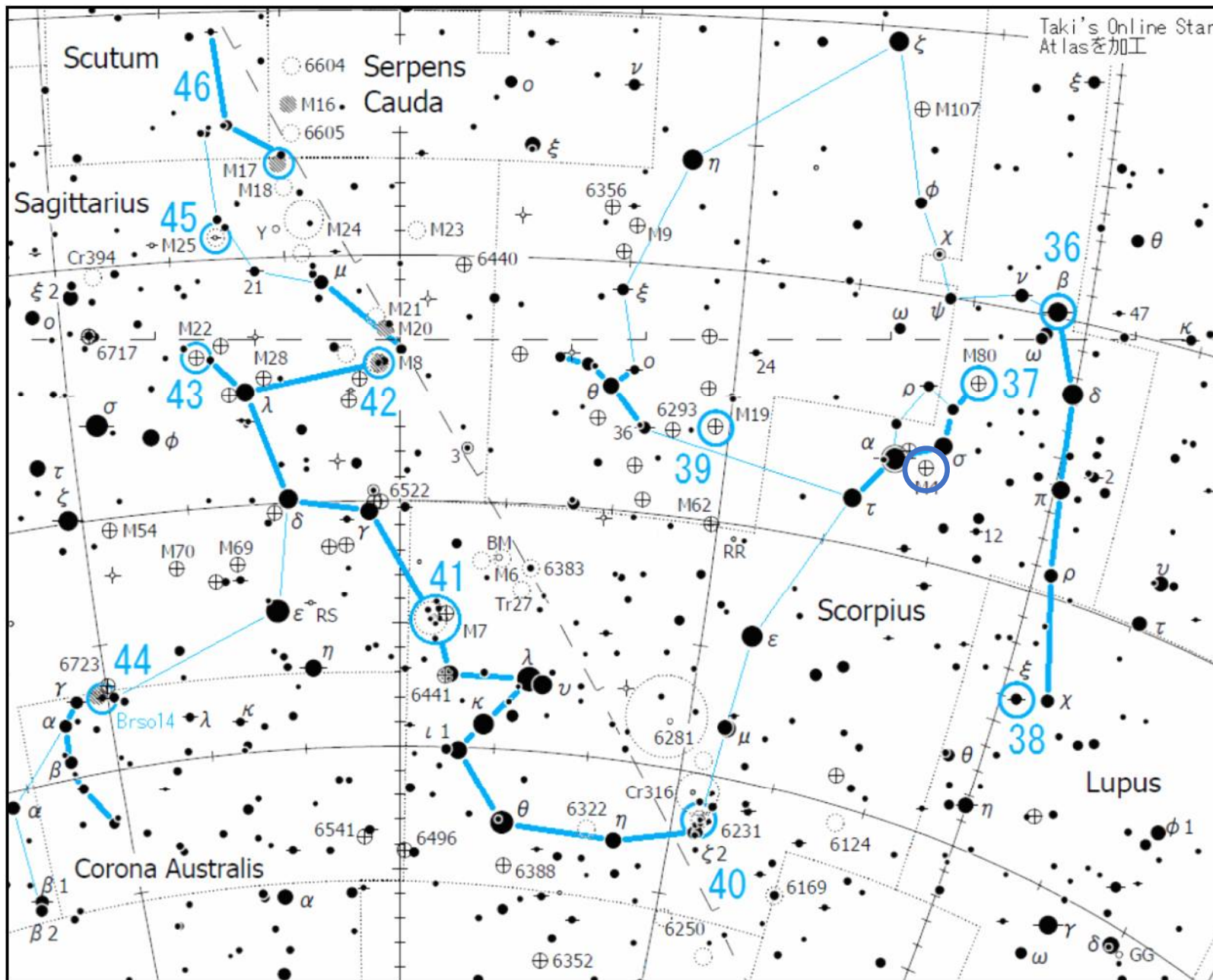
そうであれば6等星の色が解る口径を使ってみたい。



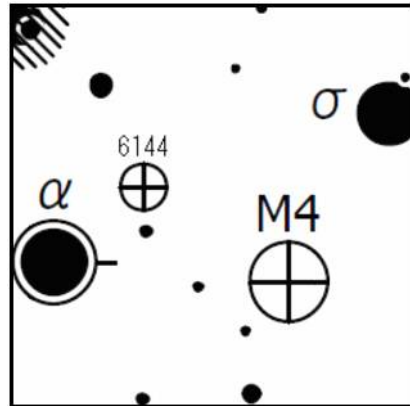


追加 6 番  
Barnard's star  
(Oph)

天文学では有名な星。9等後半だから易しいはずだが星図は必要だ。スケッチ風に作った星図を載せる。恒星の光度はSky and telescope誌のBob Kingの記事からとった。和書の扱いが小さいのが残念な星。



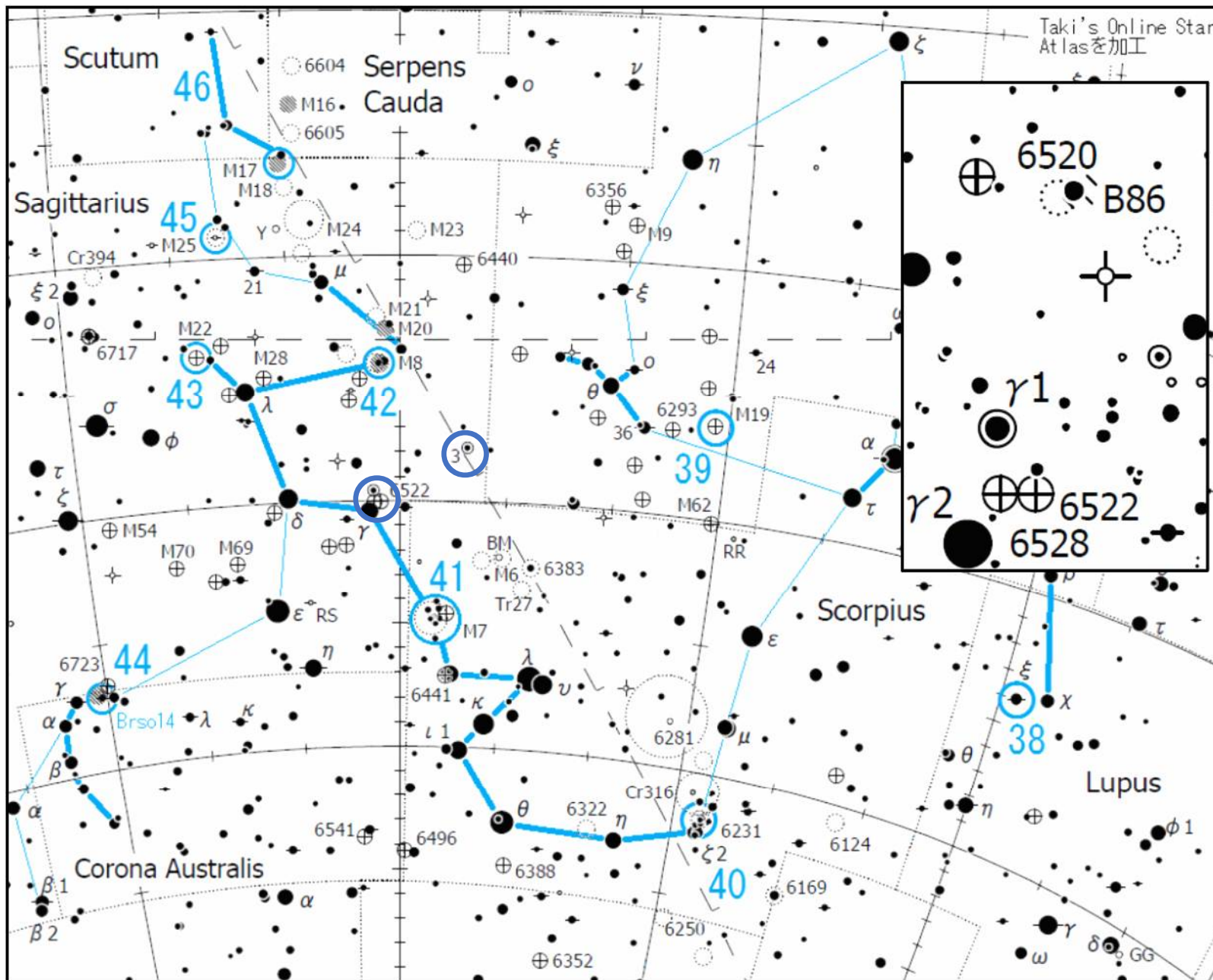
## 追加 7 番 M4 (Sco)



一桁のメシエ天体で、有名な星座の1等星の近くで、光度の数字もあり、大概のプロは薦める。だが夏空では見えない。そうと思ったら、諦めて冬の朝に見よう。澄んだ空では大物の片鱗をうかがえる。

クラス9以上の球状星団は市街地では見えない。

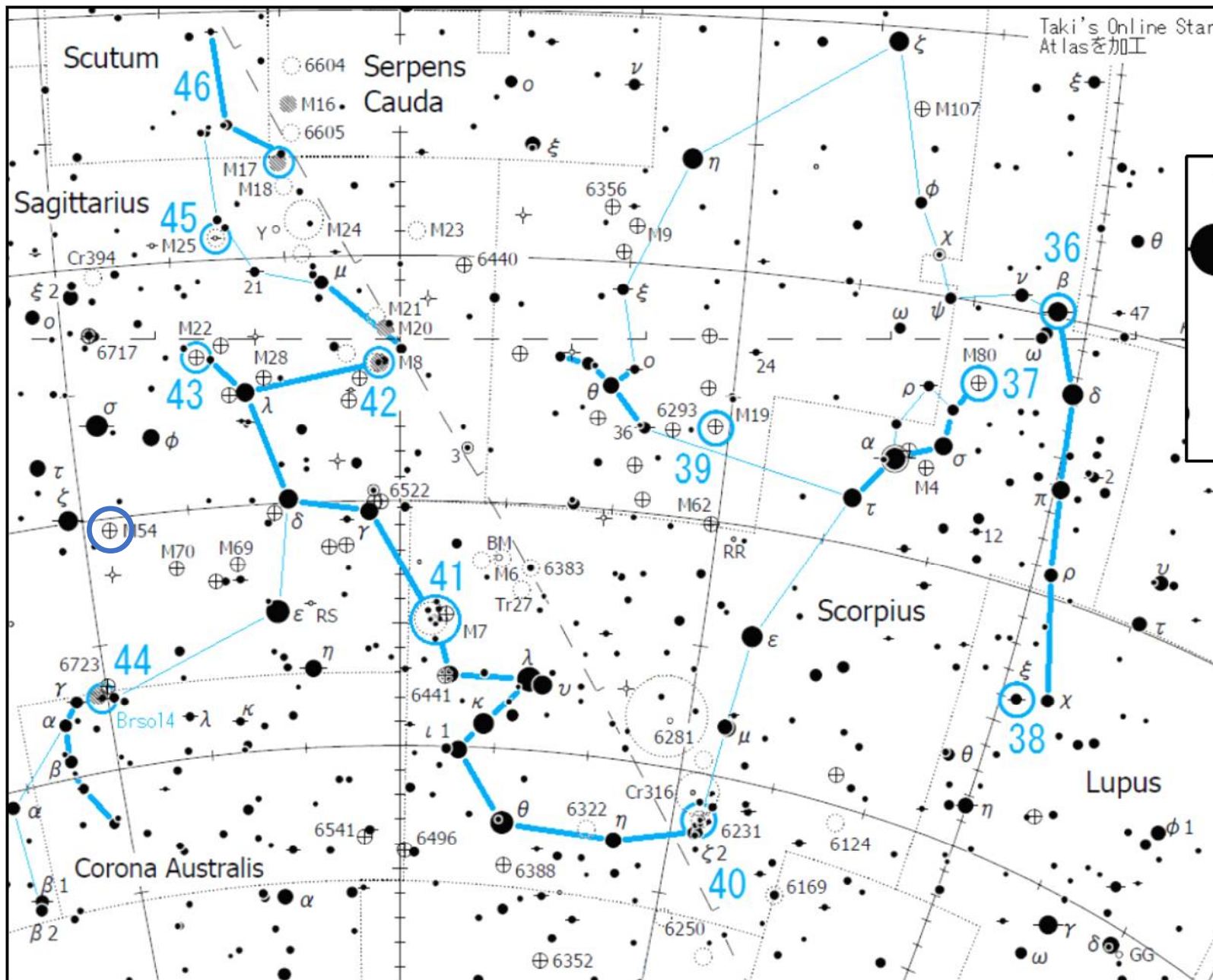
他に、M55, M56, M68 など。



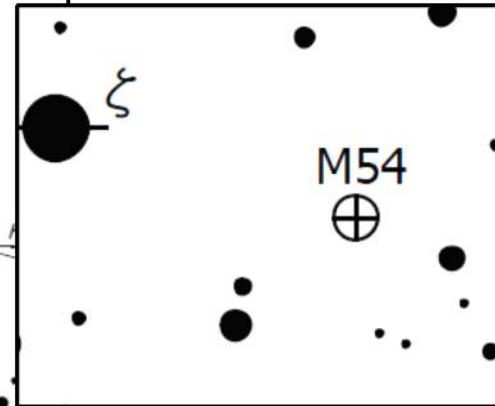
## 追加 8 番 NGC6522 (Sgr)

星雲星団・銀河を観望する人は、銀河系の構造や中心部の存在に関心を持ちたい。観望ガイドは自作するよりないようだ。位置は、いて座の3番星に近い。距離も考えると球状星団のNGC6522が良い。10等近いという本が多いが8等半ばだ。銀河系の中心部なのに遠くの星団が見えるのは「Baade's Window」という隙間があるためらしい。

二重球状星団とされる相方のNGC6528は9等半ばで暗く、良いペアとはいえない。M24も見ておきたい。

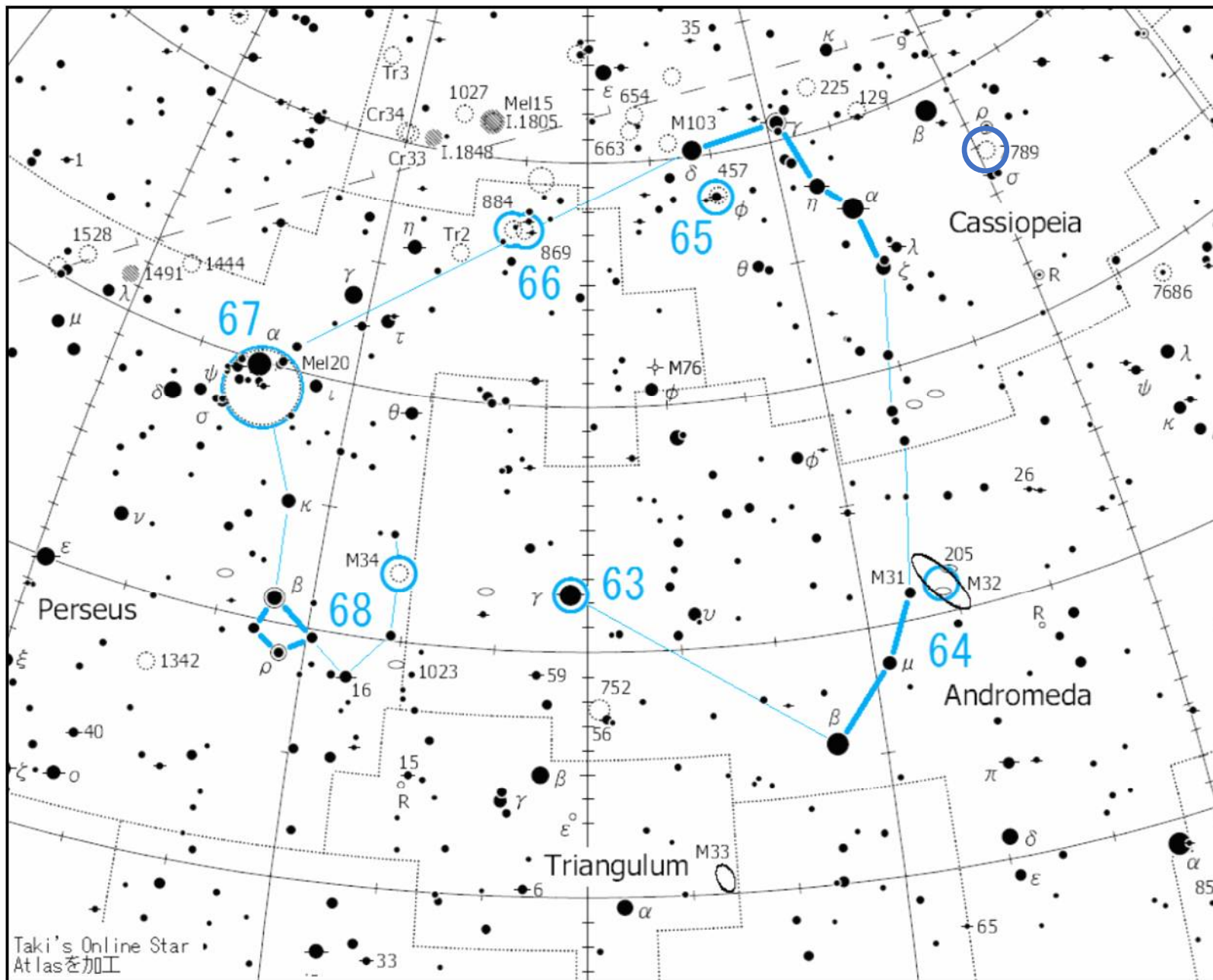


追加 9 番  
M54 (Sgr)

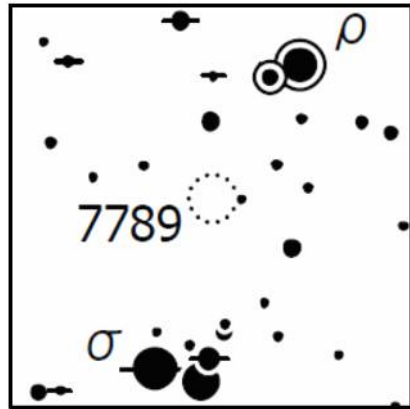


遠い球状星団は NGC2419 (Lyn) NGC7009 (De1) ) が有名だが暗い。M54 はそれに次ぐ遠さで、近年はいて座のわい銀河の方に接し、銀河系外と説明されるようになった。銀河系の構造を考えるのに良い対象だ。M31 に付属する球状星団を対象にするディープなアマチュアも存在する。





追加 11 番  
NGC7789 (Cas)



淡い散開星団は市街地では見えないという代表。類例に NGC6940 (Cyg) M46 (Pup) など多数。どれも評価が高いが、自宅で見えないときはさっさと諦める。NGC752 も似ているが大きすぎて視野からはみだすと見にくい。散開星団は選んだほうが良い。

